

生活時間調査を用いた訪日外国人客の食事時間

—訪日中国人を対象とした事例分析—

北海道大学 師 耀軒・吉田 裕介・孫 昊・山本 康貴

1. 課題

本論文の課題は、訪日外国人の訪日中における食事時間を解明することである。具体的には、今後、大幅な増加が期待されている訪日中国人を分析対象とし、生活時間調査という手法を用いた事例分析を試みる。

生活時間とは、人々が様々な活動に費やす時間（あるいはその時間配分）のことである。生活全般を時間によって把握する生活時間調査の結果は、様々な政策課題（ワークライフバランス、無償労働の評価、レジャー、移動・交通、食事など）を可視化させる道具の1つとして有用とされている（水野谷[3]）。

2009年に、訪日外国人が訪日前に期待した訪日中における観光項目の1位は「日本の食事」である（日本政府観光局[5]）。わが国においては、生活時間調査を用いた食事時間に関する研究例（小林[2]、森[4]）は見られる。しかしながら、生活時間調査を用いて、訪日外国人の食事時間を解明した研究例を見出すことはできなかった。

本論文では、留学生ならびに外国人研究者に会いに来た親族訪問客を分析対象事例とした。留学生や親族友人訪問（Visiting Friends and Relatives）を目的とした外国人来訪客（以下、VFR客と略記）については、観光市場における重要なセグメントの一つとしてとらえられ、国際的には多数の研究例がある（Bischoff and Koenig-Lewis[1]、Tham[7]）。しかしながら、日本においては留学生やVFR客に着目した観光研究は、殆どなされていない現状にある。

2. 分析方法とデータ

本論文における分析対象者は、H大学に長期に在籍している中国人留学生ならびに中国人研究者に会いに来た親族訪問客とした。H大学はアジアからの留学生が多く、とりわけ中国からの留学生数が国別では最大である。

分析対象者は2グループであり、各グループの親族訪問客側とその受入側の合計4名である。分析対象者は、調査期間内に、毎日、調査票を記入した。

分析対象者は中国人のため、『平成18年社会生活基本調査報告』（総務省統計局[6]）の調査票B（註1）をもとに、中国語による調査票を作成した。

記入された調査票結果を用いて、『平成18年社会生活基本調査報告』（総務省統計局[6]）の「詳細行動分類 定義及び内容例示」を利用し、食事行動を分析した。

3. 分析結果

表1は食事の総平均時間と行動者平均時間の結果である。

総平均時間とは、滞在全期間中の該当項目時間の平均値である。行動者平均時間とは、該当項目の行動をした日だけで算出した該当項目時間の平均値である。

朝食は午前4時～午前11時、昼食は午前11時～午後4時、夕食は午後4時～午後12時、夜食は午前0時～午前4時に開始する食事である。軽飲食は、朝食・昼食・夕食・夜食には分類されない間食（おやつなど）である。

表1 食事の総平均時間と行動者平均時間

(単位：時間.分)

	総計		日本平均(2006年)	
	総平均時間	行動者平均時間	総平均時間	行動者平均時間
食事	2.05	2.05	1.57	1.58
(朝食)	(0.21)	(0.23)	(0.25)	(0.31)
(昼食)	(0.38)	(0.50)	(0.36)	(0.41)
(夕食)	(0.55)	(0.58)	(0.43)	(0.46)
(夜食)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.37)
(軽飲食)	(0.12)	(0.35)	(0.12)	(0.47)

出所) 実態調査(2010年7月～8月)と『平成18年社会生活基本調査報告』(総務省統計局[6])により作成。

註1) 総平均時間は、滞在全期間中の該当項目時間の平均値。

註2) 行動者平均時間は、該当項目の行動をした日だけで算出した該当項目時間の平均値。

註3) 日本平均(2006年)は『平成18年社会生活基本調査報告』(総務省統計局[6])の平均値。

総平均時間についてみると、食事時間は2時間5分であり、『平成18年社会生活基本調査報告』(総務省統計局[6])における日本平均(2006年)の1時間57分と比べ、8分長い。

朝食時間は21分であり、日本平均の25分と比べ、4分短い。昼食時間は38分であり、日本平均の36分と比べ、2分長い。一方、夕食時間は55分、日本平均が43分であり、日本平均と比べて、12分長くなっている。

4. 結論

本論文の課題は、訪日外国人の訪日中における食事時間を解明することであった。具体的には、今後、大幅な増加が期待されている訪日中国人を分析対象とし、生活時間調査という手法を用いた事例分析を実施した。

本論文の成果は、訪日外国人数増加のための観光政策を推進して行く上で、特に、中国からの個人観光客を対象とする新しい観光市場の展開を推進して行く上での、基礎的知見として有用だと考える。

(註1) 生活時間調査の調査票には、プリコード方式とアフターコード方式がある。諸外国における生活時間調査の多くはアフターコード方式である。『平成18年社会生活基本調査報告』(総務省統計局[6])では、プリコード方式が

調査票A、アフターコード方式が調査票Bに該当する。本論文では、アフターコード方式(調査票B)を採用した。

参考文献

- [1] Bischoff, E. E. and Koenig-Lewis, N., "VFR Tourism: The Importance of University Students as Hosts," *International Journal of Tourism Research*, 9(6), 2007, pp465-484.
- [2] 小林和美「韓国の高齢者の生活時間—生活時間調査データの日韓比較から—」『大阪教育大学紀要』第II部門第58巻第2号、2010、pp1-15。
- [3] 水野谷武志「生活時間統計による国際比較研究の到達点と課題 - 「社会生活基本調査」と HETUS による国際比較統計を素材に - 」『経済志林』第76巻第4号、2009、pp81-98。
- [4] 森ゆかり「生活時間分析による食事時間の遅延・分散化について—NHK 国民生活時間調査のデータをもとにして—」『生活学論叢』第17巻、2010、pp40-49。
- [5] 日本政府観光局 (JNTO) 『JNTO 訪日外客訪問地調査 2009』国際観光サービスセンター、2010。
- [6] 総務省統計局 『平成18年社会生活基本調査報告 第8巻 詳細行動分類による生活時間編 (調査票B)』総務省統計局、2008。
- [7] Tham, M. A., "Travel Stimulated by International Students in Australia," *International Journal of Tourism Research*, 8(6), 2006, pp451-468.